

第130回 GiST セミナー

科学コミュニケーションの新たな担い手と課題 - 「顔の見える('visible')」 科学者、大学、政策担当者

講演者:

マッシミアーノ ブッキ 氏

トレント大学 教授



- ◆ 日時: 2024年(令和6年) 10月22日(火) 18時00分-19時30分 (開場 17時30分)
- ◆ 場所: 政策研究大学院大学 4階, 研究会室 4A (対面/オンライン開催)
東京都港区六本木 7-22-1
<https://www.grips.ac.jp/jp/about/access>
- ◆ 主催者: 政策研究大学院大学 科学技術イノベーション政策プログラム(GIST)
- ◆ 言語: 英語(通訳なし)

概要

「顔の見える('visible')」科学者たち—歴史的にはアインシュタイン、マリー・キュリー、湯川秀樹、スティーブン・ホーキングらや、最近ではアンソニー・ファウチ、サリム・アブドゥル・カリム、天野浩など—は、社会における科学への認識や信頼に影響を与えてきました。このセミナーでは、現代の科学コミュニケーションにおける新たな担い手と主要な課題に焦点を当てます。「顔の見える('visible')」科学者と大学は、科学コミュニケーションの実践と戦略において、ますます重要な担い手となっていますが、これは、科学コミュニケーションのトレーニングや、社会における科学への認識および信頼においてどのような影響をもたらすでしょうか？また、このセミナーでは、特に最近のパンデミックのような危機的状況に関連して、科学コミュニケーションの利用者としての政策立案者の役割についても探ります。

◆ 講演者略歴

マッシミアーノ・ブッキ氏は、トレント大学社会における科学技術学部教授、SCICOMM修士課程ディレクター。アジア、ヨーロッパ、北米、オセアニアで客員教授を務める。20カ国以上で出版され

た著書や、Nature、Science、PLOSなどの雑誌に掲載された論文を執筆している。英語で出版された書籍には、『科学とメディア』(Routledge、1998年)、『社会における科学』(Routledge、2004年)、『テクノクラシーを超えて』(Springer、2009年)、『ニュートンのチキン』(World Scientific、2020年)、『科学技術の公共コミュニケーションハンドブック』(第3版、B.トレンチとの共編、Routledge、2021年)、『天才、英雄、聖人：ノーベル賞と科学の公衆イメージ(MIT Press、2025)がある。2016年から2019年まで、国際ジャーナル「Public Understanding of Science」の編集長を務めた。
<http://www.massimianobucchi.it>

◆ 備考

- ・本セミナーは対面／オンラインのハイブリッド形式で行います。
- ・対面参加をご希望の場合、席に限りがあるため、先着40名様までとなります。
40名を超えた場合は、オンライン参加をお願いする場合がございます。
- ・ZoomのURLは、前日までにメールでお知らせします。

◆ 申し込み

次の登録フォームから10月17日（木）17時までにお申し込みください

<https://forms.gle/e4SGwTmF8XL3yNGv8>

登録フォームが開けない場合は、GIST 事務局(gist-ml@grips.ac.jp)に登録メールをお送りください。登録メールには、 1) 氏名 2)所属 3)肩書 4)電子メールアドレスを記載願います。